

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立太良高等学校
-----	------------

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	・「できる授業」の実践を合言葉に、学び直しの授業ではIT副教材を導入することで、生徒一人ひとりに合った教材が提示ができ、きめ細やかな対応ができた。 ・教科担当者が学習用PC、電子黒板などを効果的に活用し、より視覚的に教材を提示することで、わかりやすい授業の実践ができた。 ・生徒会を中心に主体的な活動に取り組む機会が増え、生徒が少しずつ自己表現をする力を身につけ始め、自信を深めている。	2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	・インクルーシブ教育を通して、他者を思いやり、多様性を認め合うことのできる豊かな心を育み、すべての生徒が安心して学べる学校の実現を目指す ・太良町との協働的な学びや体験活動を通して、主体的に関わり、共に生きていく心を育て、地域社会に貢献できる人材を
------------------------	---	----------------------------	---

3	スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4	本年度の重点目標
		1 強みを伸ばし、自立したいと強く願っている生徒 2 地域に積極的に関わりたいと思っている生徒 3 社会に貢献できるようになりたい生徒	1 地域と連携・協働し、創造する力を育てる教育課程を設定します。 2 様々な体験活動を通し、主体的に行動する力を育てる教育課程を設定します。 3 他者を認め、自己を知るために、教育活動の中で、互いに学び合う場を設定します。	1 答えのない問題に向き合い、新たな価値を生み出す創造力を育成します。 2 自分で考え、主体的に行動する、責任ある行動力を育成します。 3 他者を尊重し、対立を克服する調整力を育成します。		
①ボランティア活動など地域と協働した教育活動 ②ICT活用やAI副教材を導入し、学び直しの学習支援から希望進路実現のための学習しどうまでをサポートする個別最適化された教育活動 ③学校行事、特別活動、総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動等のすべての学校活動において、主体性を高め創造力を育成す						

5 重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価
---------------	------	------

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒個々人の能力や特性に応じたきめ細やかな指導の充実	○授業研究週間の年間2回以上の実施 ○ICT機器等を活用した授業を心掛けた教員90％ ○1年生の授業を中心に、AI副教材「すらら」を活用した「学び直しの時間」を取り入れた授業を実践した教員80％ ○授業評価アンケートの中で「授業内容が分かった・理解できた」と回答する生徒が80％以上を目指す。	・生徒の特性に応じた声掛け等の授業改善ができるように、少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、リメディアル教育を推進する。 ・プリント教材の精選や、ICT機器の効果的な活用を進め、生徒の学習への動機づけを図る。 ・生徒の学力は様々なため、AI副教材「すらら」を活用することで、生徒1人ひとりの学力にあった学習を定期学習会や家庭学習の課題等で主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・授業プリントの精査を行い、全員が分かる、できる授業を行う。 ・授業のまとめとして振り返りアンケートを実施し、理解の定着度を確認する。生徒がつまづいた箇所を具体的に把握し、次時に授業に役立てる。						教務主任(仲田) 進路指導主事(津村) 各教科主任(有森、武藤、橋本、大橋、野中、堤、古川聡、松尾)	
		○多様な評価方法に対応できる指導方法の研究実践	○多様な学び(UDL)の研究に取り組んだと回答した教員90％ ○生徒が「授業が分かり易い」と回答した割合が85％	・「主体的、対話的で深い学び」の実現のための教材開発・授業実践を推進する。 ・「できる授業」を推進するため、他教科の授業参観等による授業研究会を年間2回以上実施する。						教務主任(仲田) ICT活用推進リーダー(津村) 進路指導主事(津村)
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育推進教師を中心とする道徳教育推進のための研修会を1回以上実施する。 ○Q-U等を活用した生徒面談1回以上実施 ○外部講師による情報モラル教育(人権・同和教育)講演会を年1回以上実施	・人権尊重のための講演会を実施し、HR活動等で実生活につながる指導をする。 ・客観的な検査指標を利用した生徒理解を推進する。 ・月1回以上の教育相談委員会や学年会等で生徒(特性)理解をし、支援を検討する。 ・SCの活用を通じて、生徒の支援体制の充実を図る。 ・講演会や「情報」の授業やHR活動を活用した情報セキュリティ、情報モラル教育を実施する。						道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者(古川聡) 「情報」担当者(津村) 教育相談部主任(松尾) 各学年主任(大鋸、村上、栗山)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○佐賀県いじめ防止基本方針の理解及び組織的な対応の実践が「よくできている」と回答した教職員90％以上 ○学校生活全般に関しての面談の実施を年に2回以上	・学校生活アンケートを年2回以上実施する。 ・いじめ防止に関する保護者への啓発活動を充実させる。 ・いじめ防止に関する職員研修会を実施する。 ・日頃から生徒の様子に気を配り、面談等において生徒の話を聞く中で、学年や関係各部署で共有しながら、早期発見、早期対応に努める。						生徒支援部主任(堤) 各学年主任(大鋸、村上、栗山)	
		◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80％ ○県内企業への就業体験参加者80％以上。 ○体験学習やボランティア活動を通して、「地域の方とコミュニケーションをとることができたと感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒60％以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・生徒が希望する職種を佐賀県内の企業に依頼し、すくなくとも4日間は従事する。 ・地域の人々と関わる体験学習やボランティア活動の実践						教務主任(仲田) 生徒会担当者(尾形) 各学年主任(大鋸、村上、栗山)
		②「望ましい生活習慣の形成」	●規則正しい生活習慣(起床、就寝等の時間)を身につけ、十分な睡眠時間の確保65％以上	・健康調査を年2回実施し、自己の体調管理を把握させる。 ・講師を招き、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通じて、望ましい生活習慣の啓蒙を図る。						保健部主任(橋本) 養護教諭(杉原) 食育推進担当者
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「栄養バランスの良い食事はどんなものか」を理解している生徒70％以上 ●健康と食事との望ましい関係について理解している生徒70％以上 ●健康のために食生活の工夫を実践している生徒65％以上	・食事健康に関するアンケートを年2回実施し、健康教育を充実させる。 ・保健だよりや集会等の講話を通じて、望ましい食習慣や食の自己管理能力への意識を高める。						保健部主任(橋本) 養護教諭(杉原) 食育推進担当者	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年休取得14日以上の職員を80％以上にする	・時間外在校等時間が、1か月45時間未満、年間360時間未満となるように声掛けを行う。 ・定時退勤日を設定する。(毎週水曜・金曜) ・学校閉庁日を設定する。(8月7日～15日) ・部活動休養日を設定する。						管理職(教頭)	
●特別支援教育の充実	○学習面や生活面で様々な困り感を抱える生徒へのきめ細やかな支援や相談の充実	○学習面や生活面での支援を受けることで困り感が軽減されたと回答した生徒の割合が70％以上 ○生徒の情報共有の徹底	・授業におけるUDLに基づいた教育的配慮による教育課程 ・特別教育支援員による通常の学級での支援を必要とする生徒に対する補助的な支援 ・月1回以上の生徒支援委員会や週1回の教育相談部会を通して生徒理解や支援を推進する。 ・個人面談(4月)、生活状況調査を実施し、生徒の学校・家庭での状況を知り、学年団との情報共有を図る						保健部主任(橋本) 教育相談部主任(松尾)	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を85%以上、教職員の割合85%以上 ★県外からの入学者数8人以上			・地域・企業等と協働した学校運営を行う。 ・地域連携型の教育プログラムを実践する。 ・生徒委員会により、生徒が主体的に学校運営に携わるようにする。 ・学校説明会等で本校の特色を提示できるよう、積極的な広報活動を行う。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。					
○広報活動の充実	○魅力的な情報発信の継続 ○中学校、保護者、地域社会から信頼を得るための取組の推進	○学校通信「HOT通信」の月2回以上の発行 ○学校説明会、体験入学、オープンキャンパス参加者へのアンケート調査結果による満足度80%以上		・掲載内容を精選し、充実した内容で学校の魅力をPRできる学校通信を発行する。 ・生徒会や委員会活動で、中学生に向けた体験的な企画を実施する。 ・広報部によるSNS等の活用で、学校の魅力を積極的に発信する。					企画研修部主任(中村)	
○通級指導の実践	○自立活動の理解と実践 ○計画的な情報発信の実践	○自立活動の基礎知識に関する周知率80%以上 ○自立活動選択者の授業満足度80%以上		・月1回以上の通級指導委員会を通し、生徒に関する情報を共有する。 ・自立活動に関する教職員研修会を実施する。					通級指導(自立活動)担当者(西久保)	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	
----------------------	--